

「都市計画マスタープラン（案）」に関するパブリック・コメント結果

案件名	都市計画マスタープラン（案）について									
実施期間	平成28年12月15日（木）から平成29年1月13日（金）									
趣旨	<p>平成20年3月に策定した「越前市都市計画マスタープラン」の中間年次における検証と見直しを目的として、同時に策定する立地適正化計画との整合を図りながら、「コンパクトシティの更なる推進」を目指します。</p> <p>また、本庁舎の現在地での建設、今立総合支所の複合施設としての整備、北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画、第3期中心市街地活性化基本計画などの内容を反映させます。</p>									
意見提出者数 (件数)	4名 6件									
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未記入	合計
	男性			1			2			3
	女性						1			1
	未記入									
	合計			1			3			4
意見の内容	<p>以下のとおり</p> <p>(本計画に関する内容ではない意見については、掲載を省略)</p>									
意見に対する回答	以下のとおり									

No	年齢 性別	該当する箇所	ご意見の要旨	越前市の回答（案）
1	60代 男性	1. 都市計画マスタープランの改定のポイント 2. まちづくりの主要課題	(1) 平成20年3月に策定し丸8年が経過したが、実現出来たこと、実現出来なかったこと、継続したこと、変えたいことなどをわかりやすくまとめてほしい。	<p>(1) 今回の都市計画マスタープランの改定においては、同時に策定する立地適正化計画との整合を図ることと、本庁舎の現在地での建設及び今立総合支所の複合施設としての整備の決定、北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画の策定、中心市街地活性化基本計画に関する主要プロジェクトの具体化など、まちづくりに大きな影響を与える関連プロジェクトの反映を改定の視点とするとともに、現在までの進捗状況を踏まえて、まちづくりの主要課題を整理しております。</p> <p>【1頁 改定のポイント 視点 ①コンパクトシティの更なる推</p>

		<p>3. まちづくりの基本目標</p> <p>5. 将来都市像</p>	<p>(2)基本理念とテーマ、まちづくりの基本目標、都市の基本構成、都市機能、将来都市像を実現させるために、短期・中期・長期のスケジュール実行計画が必要です。</p>	<p>進、視点②関連プロジェクトの反映】</p> <p>(2)将来都市像の実現に向けた主要プロジェクトの実施時期については、平成27年12月に策定した北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画や平成28年11月に国の認定を受けた中心市街地活性化基本計画など、各種計画と連携し、アクションプログラムに示します。</p> <p>【11頁 ①越前市に求められる都市機能】</p>
2	30代男性	<p>5. 将来都市像</p> <p>(2) 将来都市像</p> <p>②拠点、軸、地域の設定</p>	<p>(1)人口減少社会において、小学校区毎にコミュニティ拠点を設定しているが、コミュニティの維持が困難になる地区状況も予想されるので、今後どのようにコミュニティの維持を図っていくのか。</p>	<p>(1) 各地区のコミュニティの維持については、隣接する地域間で日常生活に必要な生活サービス機能の相互補完や、継承されてきた地域固有の歴史や文化を生かした、人やモノの交流を推進することにより、地域コミュニティの維持及びネットワークの強化に努めてまいります。</p> <p>【6頁 基本目標⑤市民主体による越前市の創造】</p>
3	60代男性	<p>図7 将来都市像図</p>	<p>(1) 環境共生軸の考え方について、オープンスペースという概念や「河川公園・サイクリングロード・駐車場・バーベキュー・さかなとりができる」多様な利用形態を可能にする概念を導入して欲しい。</p> <p>(2) P15図7将来都市像図の中でコミュニティの表示</p>	<p>(1) 環境共生については、市の中央を南北に縦貫する日野川は、まちに潤いを与える広大なオープンスペース、多様な動植物の生息生育域として、自然環境の保全を図りながら、身近に自然に触れ合える場として活用してまいります。</p> <p>【13頁 環境共生軸】</p> <p>(2) 東地区や西地区、味真野地区、栗田部地区、岡本地区のコ</p>

			が全地区ないので、17地区をコミュニティ拠点として表示して欲しい。	コミュニティ拠点の表示については、中心拠点や地域拠点、歴史・文化拠点の表示と重なっていることから、図中に表示しておりません。 【15頁 将来都市像図】
4	60代女性	5. 将来都市像 (2) 将来都市像 ②拠点、軸、地域の設定	(1) 今後、人口減少を考えるならば、今立総合支所(複合施設)は、合併したのに立派な建物すぎるのではないか、支所機能だけでいいのではないか。	(1) 平成26年3月に変更した「新市建設計画」において、現在の総合支所を改築し存続することにより、市東部地域の防災・コミュニティ等の機能を有する複合施設として拡充整備を図ることで、市民の利便性の向上や安全安心なまちづくりを推進すると位置付けております。 なお、本庁舎と今立総合支所の改築にあたっては、周辺施設との統廃合を実施する中、現在の施設面積と比較し、延べ床面積を約4割減少させております。 【12頁 地域拠点】